

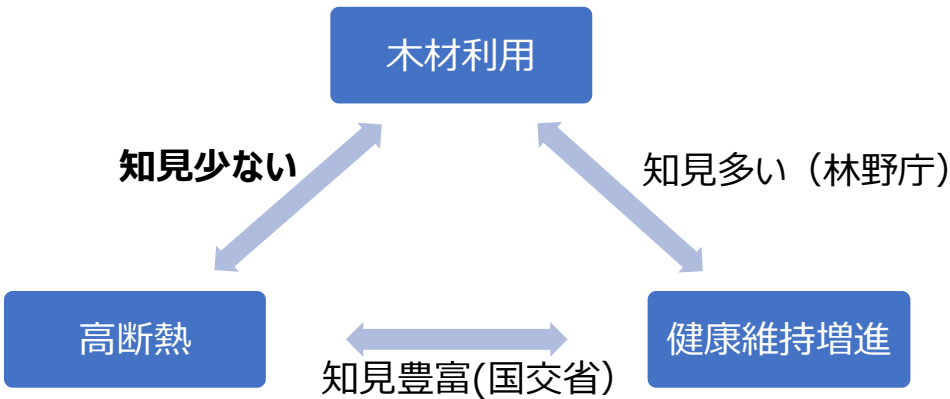
毎日の暮らしの中で木材の良さを実感できると、木材の価値は高まるはず

表. 47都道府県の「住生活基本計画」における木材の位置づけ

視点	代表 キーワード	県 数	その他キーワード
住宅産業	産業活性化	37	地域材利用促進、住宅関連産業活性化
社会環境	炭素貯蔵	32	脱炭素社会
住宅産業	技術継承	22	伝統技術、技能者の育成促進
社会環境	資源循環	8	森林資源循環利用、循環型社会形成
住宅産業	地域性	7	気候風土適応住宅、気候風土にあった県産材
居住者		3	室内の快適性や調湿・子供の育成環境にプラス（大阪府）、木塀によるブロック塀代替（鳥取県）、内装木質化によるシックハウス対策（熊本県）

住生活基本計画は【社会環境の変化からの視点】、【居住者・コミュニティからの視点】、【住宅ストック・産業からの視点】の3つの視点で構成される。

木材はこのうち「住宅産業」「社会環境」の文脈で語られることが多く、「居住者・コミュニティからの視点」ではほとんど位置づけられていない。毎日の暮らしと縁遠く、木材の良さを実感しにくいのが現状。



木材利用と温熱環境の関係は未解明